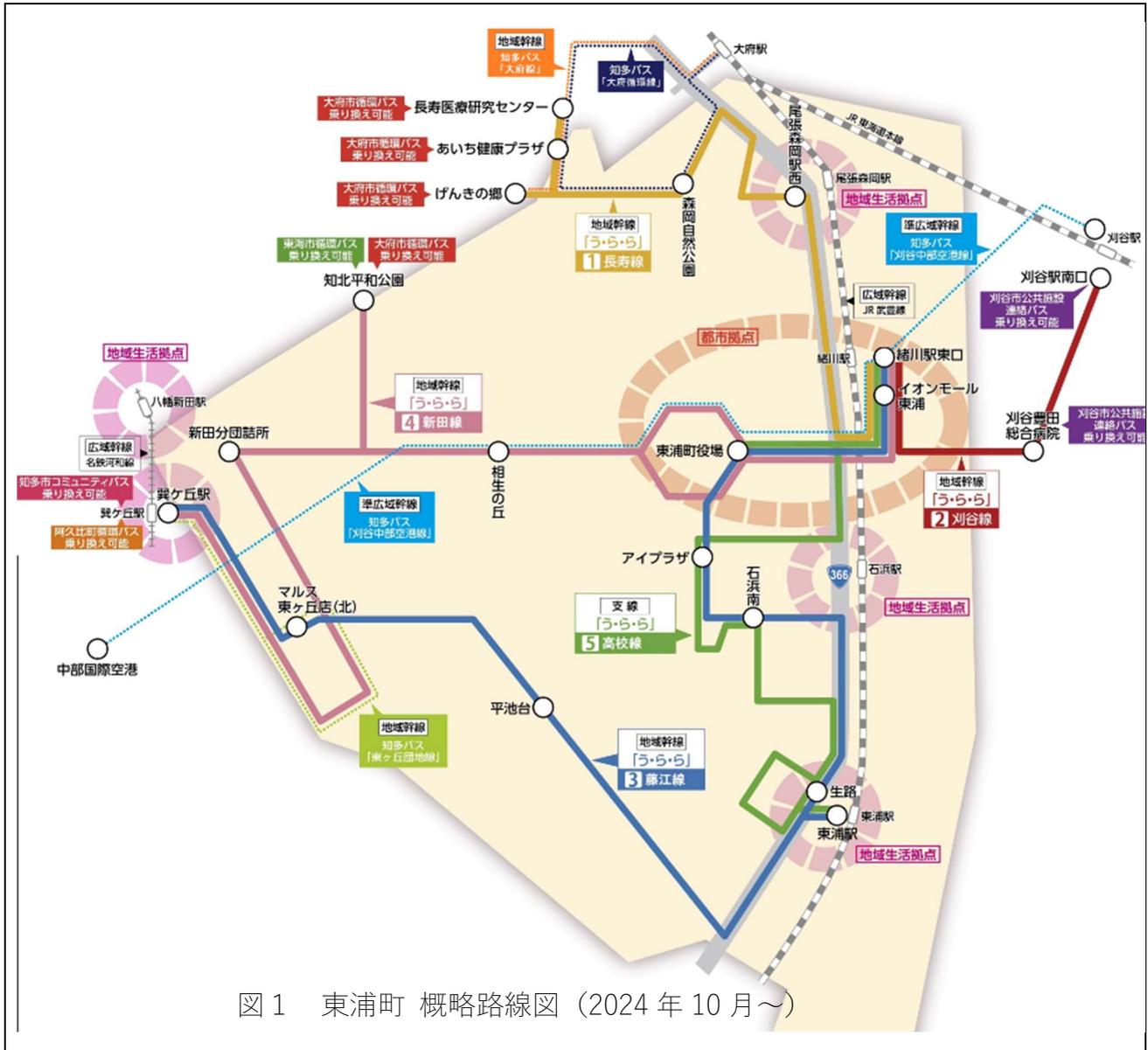


公共交通の利用推移

1 東浦町の公共交通

町内を運行している公共交通の路線名、経路などを概略的にまとめたものが図1の概略路線図になる。「う・ら・ら」の他に以下の公共交通が運行している。

- ① 鉄道…………… 2路線（町内に鉄道駅があるのはJR武豊線のみ）
- ② 知多バス（路線バス）…………… 2路線（「大府線」は、「大府循環線」を含む）
- ③ 知多バス（空港バス）…………… 1路線
- ④ タクシー…………… 6事業者（知多交通圏）



2 町運行バス「う・ら・ら」

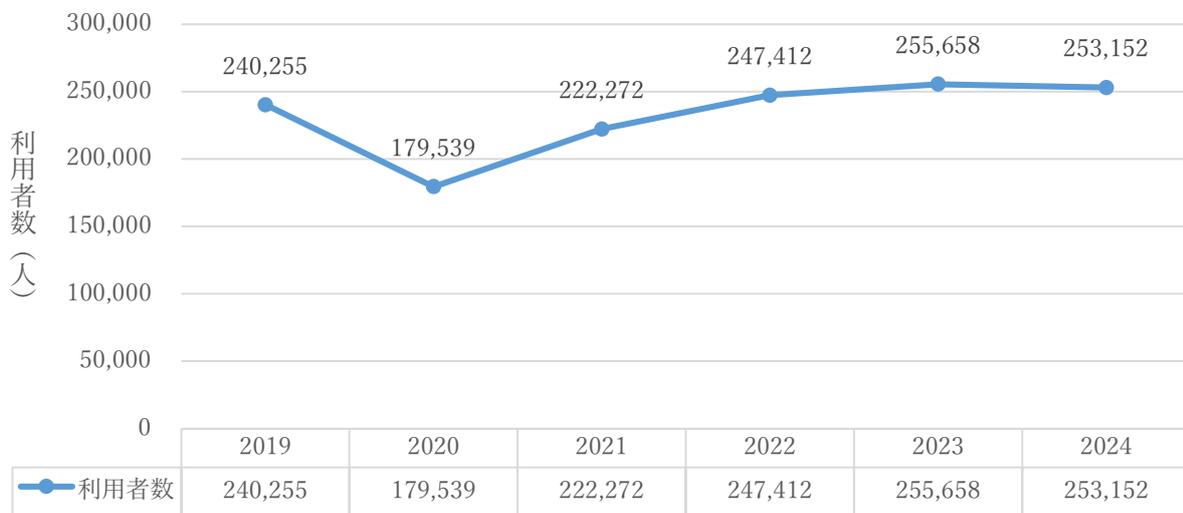
■町内移動を主に、刈谷市・大府市・知多市・阿久比町への移動ができ、一定量以上の移動需要に対応

町内の買い物、通院、小学校の通学の足としての役割を担っている。2019年度から2024年度までの「う・ら・ら」の利用者数の年度別推移は図2のとおりである。

- ① 図2から、2024年度の全路線の利用者数の計は253,152人、コロナ禍の2020年度の利用者数は179,539人であり、利用者数で比較すると、**73,613人の増（約41%増）**となっていることが分かる。
- ② 図2から、2024年度の全路線の利用者数の計は253,152人、2023年度の利用者数は255,658人であり、利用者数で比較すると、**2,506人の減（約1%減）**となっていることが分かる。

以上のことから、2024年10月に実施したダイヤ改正に伴い、発着・乗継時間の変更に伴い、ダイヤ改正前に利用していた便がなくなったことなどを理由に、利用者が「う・ら・ら」から一定数離れてしまっていると考えられるが、全体的にはコロナ禍（2020年度）以降利用者数は徐々に増加している。

図2 町運行バス「う・ら・ら」利用者数の推移（年度別）



3 鉄道「JR 武豊線」

■他都市との広域移動、町内移動ができ、大量の移動需要に対応

東部に JR 武豊線、西部の町境付近に名鉄河和線が南北に通っている。2019 年度から 2024 年度までの鉄道「JR 武豊線」町内各駅の乗車人数の推移は図 3 のとおりである。また、乗車人数のうち定期券利用者の推移は図 4 のとおりである。

(1) JR 武豊線の乗車人数の比較

- ① 図 3 から、2024 年度の武豊線各駅の乗車人数の計は 1,971,517 人、コロナ禍の 2020 年度の乗車人数の計は 1,704,039 人であることが分かる。**2024 年度と 2020 年度の乗車人数の計とで比較すると 267,478 人の増（約 16%増）**となっている。
- ② 図 3 から、2024 年度の武豊線各駅の乗車人数の計は 1,971,517 人、2023 年度の乗車人数の計は 1,938,171 人であることが分かる。**2024 年度と 2023 年度の乗車人数の計とで比較すると 33,646 人の増（約 1%増）**となっている。

(2) JR 武豊線の乗車人数（うち定期）の比較

- ① 図 3 及び図 4 から、**JR 武豊線の町内各駅の乗客は約 7 割が定期券利用者**であることが分かる。
- ② 図 4 から、2024 年度の武豊線各駅の乗車人数(うち定期)の計は 1,413,348 人、コロナ禍の 2020 年度の乗車人数の計は 1,317,210 人であることが分かる。**2024 年度と 2020 年度の乗車人数の計とで比較すると 96,138 人の増（約 7%増）**となっていることが分かる。
- ③ 図 4 から、2024 年度の武豊線各駅の乗車人数(うち定期)の計は 1,413,348 人、2023 年度の乗車人数の計は 1,392,958 人であることが分かる。**2024 年度と 2023 年度の乗車人数の計とで比較すると 20,390 人の増（約 1%増）**となっていることが分かる。

以上のことから、この乗車人数の推移について、コロナ禍の影響を受け、リモートワークやオンライン授業が推進されたことや、**定期券利用者が減少したこと**で 2020 年度に乗車人数が減少したが、それ以降規制緩和に伴い外出機会が増え、徐々に乗車人数が増加していると考えられる。ただし、コロナ禍以降も東浦高校に通う生徒数の減少により、2024 年度の乗車人数が 2019 年度の乗車人数に及んでいないと考えられる。

図3 JR武豊線各駅 乗車人数の推移（年度別）

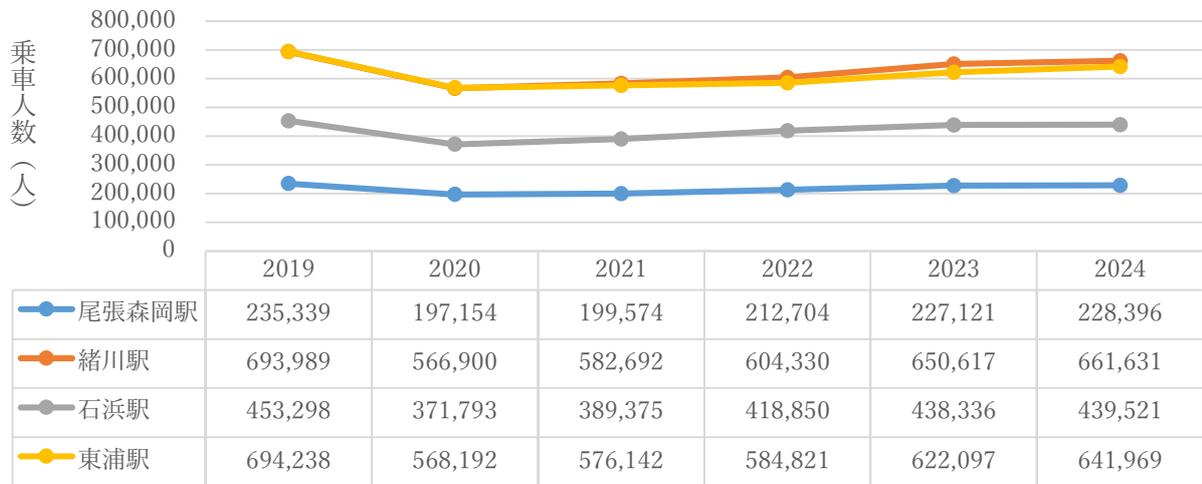
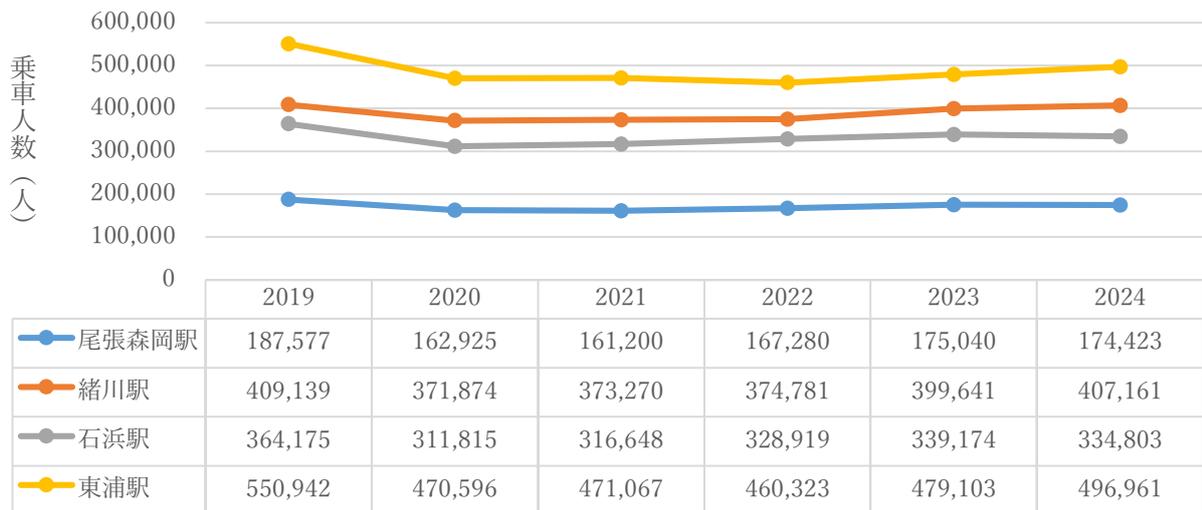


図4 JR武豊線各駅 乗車人数の推移（うち定期）



4 民間バス「路線バス」

■近隣市への移動、町内移動ができ、一定量以上の移動需要に対応

知多バス「大府線」は、森岡日生団地と JR 大府駅を結び、知多バス「東ヶ丘団地線」は、東ヶ丘団地から名鉄巽ヶ丘駅を結び、それぞれ通勤・通学の足を担っている。2019 年度から 2024 年度までの知多バス「大府線」及び「東ヶ丘団地線」の利用者数の推移は図 5 のとおりである。

(1) 知多バス「大府線」の利用者数比較

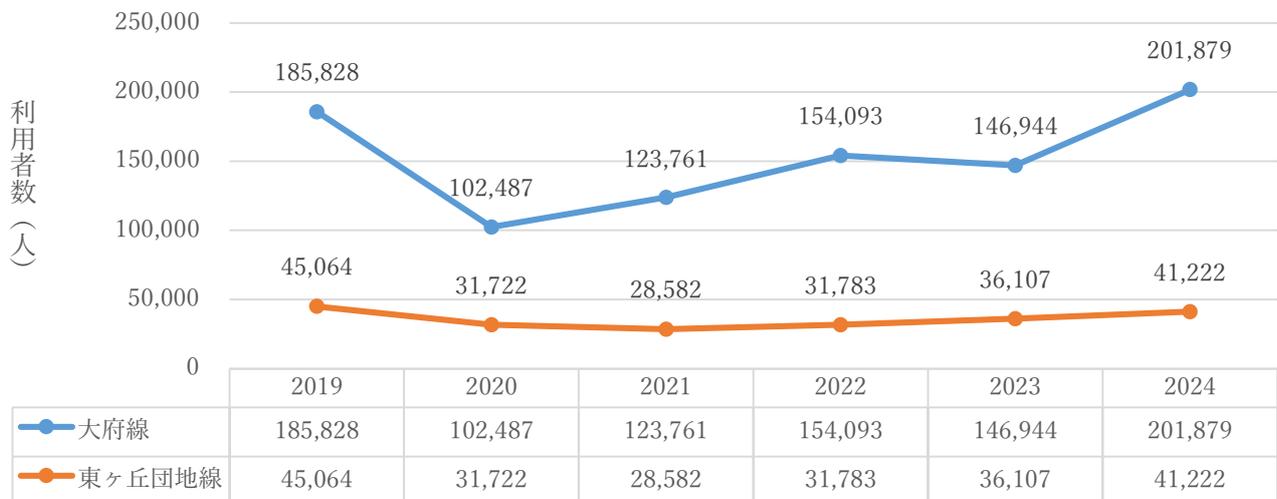
- ① 図 5 から、2024 年度の大府線の利用者数は 201,879 人、2023 年度の利用者数は 146,944 人であることが分かる。
- ② 図 5 から、**2024 年度と 2023 年度の大府線の利用者数で比較すると 54,935 人の増 (37%増)** となっていることが分かる。

(2) 知多バス「東ヶ丘団地線」の利用者数比較

- ① 図 5 から、2024 年度の東ヶ丘団地線の利用者数は 41,222 人、2023 年度の利用者数は 36,107 人であることが分かる。
- ② 図 5 から、**2024 年度と 2023 年度の東ヶ丘団地線の利用者数で比較すると 5,115 人の増 (14%増)** となっていることが分かる。

以上のことから、大府線の利用者数の増加は、コロナ禍の影響を受け、リモートワークやオンライン授業が推進されたことで一時利用者数が減少したが、それ以降規制緩和に伴い外出機会が増え、沿線の商業施設や病院等への利用者が増加しているためだと考えられる。また、東ヶ丘団地線の利用者数の増加は、2024 年 10 月 1 日より IC カード[※]決済導入により、旅客の利便性が向上したことが一因であると考えられる。

図 5 知多バス「大府線」「東ヶ丘団地線」利用者数の推移
(年度別)



5 民間バス「空港バス」

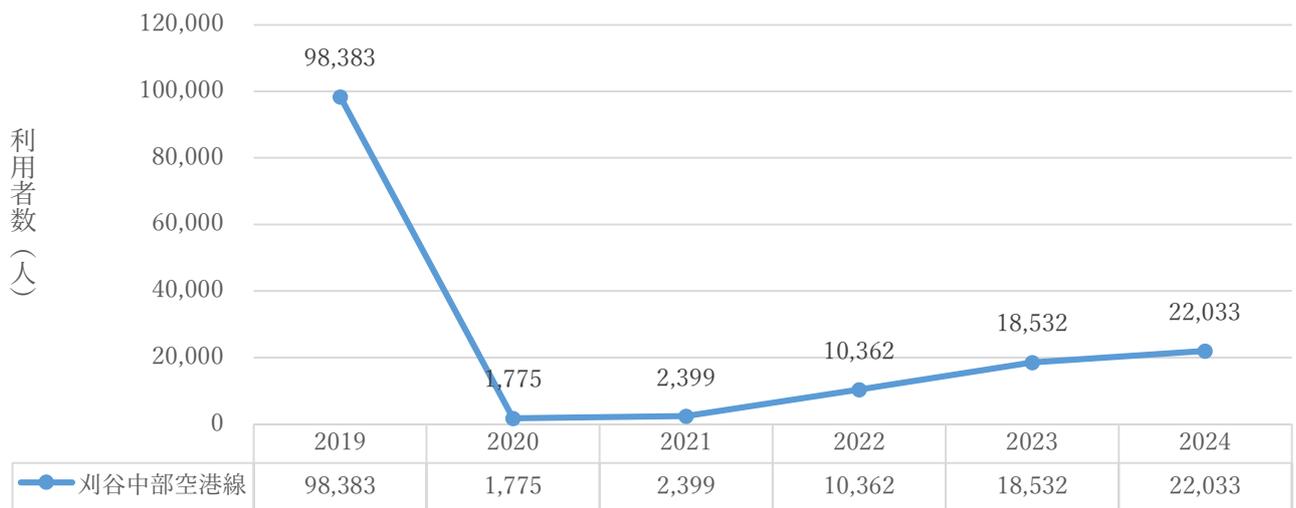
■緒川駅から空港や近隣市（知立駅前・刈谷駅前・東陽町（刈谷市）・刈谷市駅口）までの区間利用が可能で、一定量以上の移動需要に対応

知立駅から刈谷駅や緒川駅を經由し、中部国際空港まで運行している。2019年度から2024年度までの知多バス「刈谷中部空港線」の利用者数の推移は図6のとおりである。

- ① 図6から、2024年度の刈谷中部空港線の利用者数22,033人、2019年度の利用者数は98,383人であることが分かる。
- ② 図6から、**2024年度と2019年度の利用者数で比較すると76,350人の減（78%減）**となっていることが分かる。

この利用者数の減少は、コロナ禍の影響を受け、**運行便数を減便（2019年度：1日当たり上り13便・下り14便、2023年度：1日当たり上り5便・下り6便）**したことが原因だと考えられる。

図6 知多バス「刈谷中部空港線」利用者数の推移（年度別）



6 タクシー

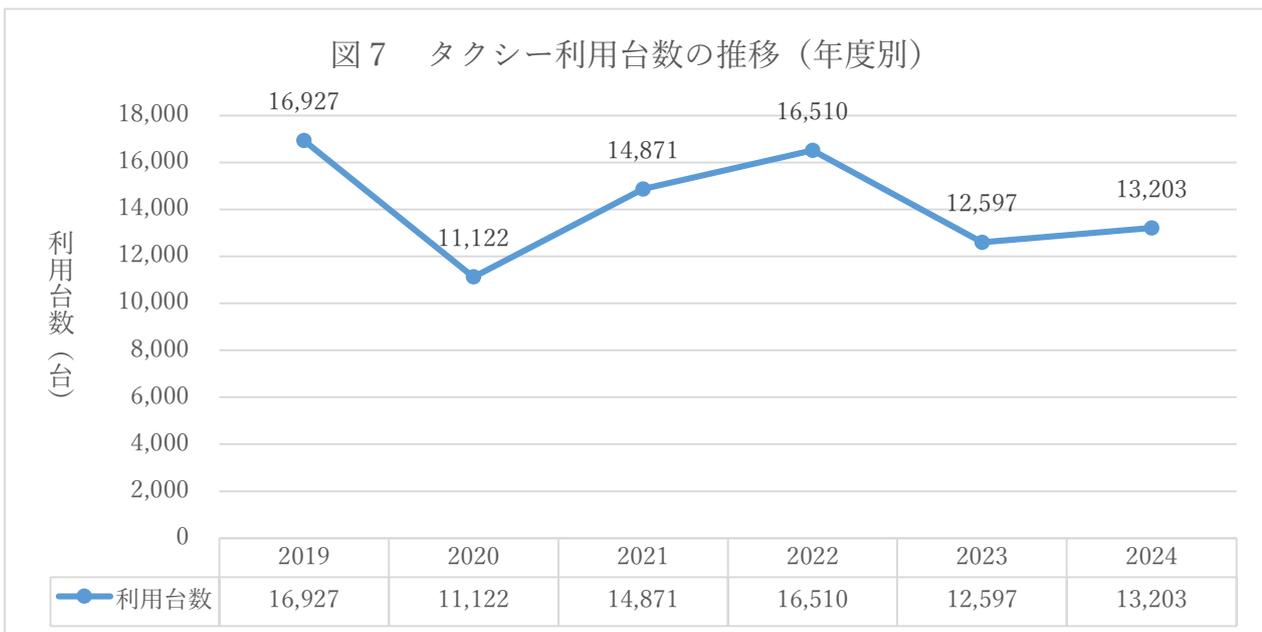
■鉄道・バスでは難しい少量の移動需要に対応

鉄道やバスでは運行できない箇所まで、きめ細かなサービスを提供することが可能である。知多交通圏を営業エリアにするタクシー会社は6社。そのうち、町内 JR 駅に待合所があるのは3社である（安全タクシー(株)、名鉄知多タクシー(株)、大興タクシー(株)）。

2019年度から2024年度までのタクシー事業者（安全タクシー(株)、大興タクシー(株)、名鉄知多タクシー(株)）の利用台数の年度別の推移は図7のとおりである。なお、2020年度から2024年度までの利用台数の月別の推移は図8のとおりである。

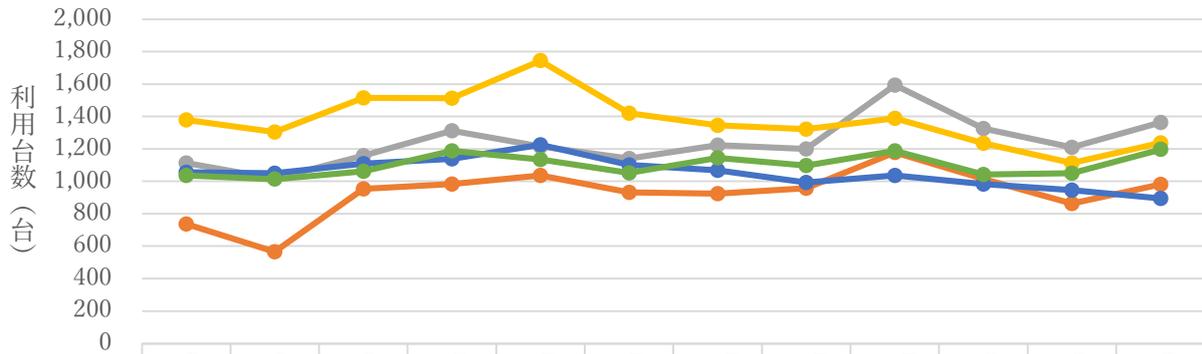
- ① 図7から、2024年度の利用台数は13,203台、2019年度の利用台数は16,927台であることが分かる。なお、コロナ禍前の2018年度の利用台数は19,933台である。
- ② 図7から、**2024年度と2019年度の利用台数とで比較すると3,724台の減（28%減）**となっていることが分かる。

このコロナ禍以降の利用台数の減少及び利用台数の下げ止まりは、**乗務員不足による稼働率の低下が原因**だと考えられる。



※利用台数は東浦町発の車両のみを集計している。

図8 タクシー利用台数の推移（月別）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020	736	566	954	983	1,035	931	923	957	1,178	1,015	863	981
2021	1,112	1,018	1,159	1,311	1,216	1,141	1,224	1,199	1,594	1,325	1,209	1,363
2022	1,378	1,303	1,514	1,513	1,744	1,420	1,346	1,321	1,388	1,234	1,113	1,236
2023	1,055	1,049	1,109	1,138	1,225	1,101	1,068	993	1,035	983	946	895
2024	1,036	1,014	1,062	1,187	1,134	1,052	1,145	1,098	1,188	1,041	1,049	1,197

※利用台数は東浦町発の車両のみを集計している。

7 まとめ

町運行バス「う・ら・ら」や鉄道等の公共交通の利用者数の推移をまとめたものが表1である。

表1から、2024年度と2019年度の利用者数を比較した場合、**利用者数が増加したのが町運行バス「う・ら・ら」の5%増、利用者数の減少が最も大きいのが知多バス刈谷中部空港線の78%減、次に減少が大きいのがタクシーの23%減であった。**

公共交通の利用者数は依然としてコロナ禍以前の数値を下回っている。特に知多バス及びタクシーは便数の減少や稼働率の低下により、利用者数はコロナ禍以前の数値を大きく下回っている。今後も利用者数の推移を注意深く分析するとともに、公共交通の乗り方教室等の周知事業、回数券の共通利用等の利便性を向上させる施策、外出プランの提案などおでかけの楽しさを再発見していただけるような企画を検討・実施し、**公共交通の利用促進に努めていきたい。**

表1 公共交通の利用者数・利用台数の推移

	利用者数・利用台数（年度別）						コロナ禍以前との比較		前年度比		
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2024-2019	2024/2019	2024-2023	2024/2023	
JR 武豊線	尾張森岡駅	235,339	197,154	199,574	212,704	227,121	228,396	△ 6,943	97%	1,275	100%
	緒川駅	693,989	566,900	582,692	604,330	650,617	661,631	△ 32,358	95%	11,014	101%
	石浜駅	453,298	371,773	389,375	418,850	438,336	439,521	△ 13,777	96%	1,185	100%
	東浦駅	694,238	568,192	576,142	584,821	622,097	641,969	△ 52,269	92%	19,872	103%
	計	2,076,864	1,704,019	1,747,783	1,820,705	1,938,171	1,971,517	△ 105,347	94%	33,346	101%
知多 バス	大府線	185,828	102,487	123,761	154,093	146,944	201,879	16,051	108%	54,935	137%
	東ヶ丘団地線	45,064	31,722	28,582	31,783	36,107	41,222	△ 3,842	91%	5,115	114%
	刈谷中部空港線	98,383	1,775	2,399	10,362	18,532	22,033	△ 76,350	22%	3,501	118%
	計	329,275	135,984	154,742	196,238	201,583	265,134	△ 64,141	80%	63,551	131%
タクシー		16,927	11,122	14,871	16,510	12,597	13,203	△ 3,724	77%	606	104%
う・ ら・ ら	長寿線	42,655	33,845	42,345	49,123	51,848	52,226	9,571	122%	378	100%
	刈谷線	24,938	22,124	25,514	29,405	32,300	34,340	9,402	137%	2,040	106%
	全路線	240,255	179,539	222,272	247,412	255,658	253,152	12,897	105%	-2,506	99%

※JR武豊線の単位は乗車人数（人）、タクシーの単位は利用台数（台）、その他は利用者数（人）である。